

ふるさと歴史散歩 202

～松前史談会レポート～

宇和島藩・伊達十萬石の256年 III

慶長19(1614)年12月「大坂冬の陣」の後、將軍徳川秀忠より宇和郡十萬石を拝領した伊達秀宗は、翌年3月18日板島丸串城(現宇和島城)に入城する。(宇和島の地名が使われ始める)これに先立ち栗野豊後や山家清兵衛ら伊達政宗が選抜した「五十七騎」が板島入り、藤堂良勝より城地を受け取る。この時政宗は未知の土地での秀宗の領国経営を心配し、五力条の教訓「貞山公御教諭」をしたためた。

宇和島入部時から藩運営は多難であった。走百姓が多く領地は荒廃しており、政宗から借りた資金数万両の返済問題もあった。返済を巡って議論が二分し返済推進派の家老山家清兵衛が暗殺された。秀宗は、三男宗利に家督を譲るが五男宗純に三萬石を分地する事としたので再び家中は騒動になり吉田藩三萬石が成立、二代宗利の宇和島藩は七萬石となった。元禄9(1696)年、三代宗賢の時に十萬石の高直しとなるが、財政はますます窮乏した。四代村年の享保年間(1716～35年)には大飢饉が連続し藩財政は破綻。五代村候は倭約と殖産振興により財政再建を進めるも天明の飢饉で挫折。

六代村壽は藩士の大減俸と殖産事業で財政建て直しを図り、七代宗紀は債務整理を断行し財政を立て直す。結果六萬両の蓄財に成功し、八代宗城の財政基盤となる。

「幕末の四賢侯」といわれる宗城は、將軍継嗣問題・国事幹旋などに活躍。廃藩置県により九代宗徳をもって藩は終焉する。(山本 明記)



1 宇和島城 天守

二代藩主伊達宗利が寛文年間に再建した均整美の取れた三重三階の現存天守。国指定重要文化財

2 宇和島城 上り立ち門

城山の南側登城口に現存する薬医門。国内現存薬医門の中で最大級、最古のもの。市指定文化財



3月の歴史散歩は実施しません。

問 松前史談会(麻生) ☎ 090-4472-8136

community learning center 公民館 だより

【開館時間】	9時～22時	【休館日】	12月28日～1月4日
◆東公民館	神崎 210	☎ 984-1159	FAX 984-1457
◆西公民館	北黒田 966-2	☎ 984-5313	FAX 984-5313
◆北公民館	昌農内 456-1	☎ 984-7529	FAX 984-9398

西 公民館

毎月順番に活動内容をお届け!

図書室・キッズスペース紹介



⑤靴を脱いで遊べるキッズスペース

⑥ゆっくり読書ができる図書室

学び・遊びの場として、西公民館の図書室やキッズスペースを活用しませんか。

図書室には、随時入荷している新刊のほか、利用者の意見を取り入れながらそろえた本がずらり。健康保険証などの身分証明書を提示して登録をすれば、1人5冊まで貸し出すこともできます。

キッズスペースには、親子や地域の子どもたちが安全に楽しく過ごせるよう、おもちゃなどを用意しています。

地域の皆さまの憩いの場、学習の場、出会いの場として、ぜひ気軽にお立ち寄りください。

●利用時間 9時～16時30分(土・日、祝を除く)
※ 感染状況により、閉館する場合があります。

ふるさと ライブラリー

◆開館時間 9時30分～19時
◆問い合わせ ☎ 985-4140
FAX 985-1386
<https://www.i-masaki.jp/library/>
◆3月の休館 15日(火)～24日(水)、31日(金)

3月のおはなし会は中止します

◆3月の新着本 紹介

毎週新しい本を入荷し、新着本コーナーに展示しています。

▶月の光の届く距離
宇佐美まこと
著/光文社



予期せぬ妊娠をした女子高生・美優は、奥多摩にあるゲストハウスに預けられる。そこは明良・華南子兄妹が、貧困や虐待など難しい背景をもつ子どもたちを里子として育てている場所だった…。家族の在り方に迫る物語

▶探花
今野敏・著
新潮社



横須賀基地近くで殺人事件が発生。米海軍犯罪捜査局が捜査に加わる異例事態に…。一方、竜崎の同期でトップ入庁の警察官僚・八島が神奈川県警に赴任してきて…。人気の隠蔽捜査シリーズの9作目

▶母の待つ里
浅田次郎・著
新潮社



家庭も故郷もない還暦世代の3人の男女の元に舞い込んだ、「理想のふるさと」への招待。奇妙だけれど魅力的な誘いに半信半疑で向かった先には、かけがえのない「母」との出会いが待っていて…。感動の家族小説



◀75歳以上の免許更新が変わる!!!
高齢者安全運転支援研究会
監修/JAFメディアワークス

違反歴があると、難しい運転実技のテストが必要という噂は本当か!? 5月から施行される75歳以上を対象とした免許更新の新制度を、イラスト付きで分かりやすく解説。「運転しやすいサポカー選び」も収録



◀#寂聴さん
秘書がつぶやく2人のヒミツ
瀬尾まなほ
著/東京新聞

まさかのコロナ感染と老人ホーム入所、食欲、最後の恋人、お別れの日…。瀬戸内寂聴の一番身近にいた秘書が、面白おかしく、時に切ない最期の日々をつづる。今明かされる、寂聴さん最期の日々。横尾忠則の寄稿も収録



◀もし親友が婦人科医で、何でも聞けるとしたら?
シーラ・デ・リス
著/サンマーク出版

月経、女性ホルモン、更年期…。もしあなたの親友が婦人科医で、何でも聞けるとしたらどんな質問をしますか?婦人科医の著者が、優しい言葉で軽快にさまざまな角度から女性の体の「大事なこと」を説明します